

協議内容や課題報告

盛岡商議所
第3回会合

取りまとめに向け



LC)計画に関して、誘致実現への課題研究などを行う盛岡商工会議所のILC実現検討会議(議長・谷村

邦久会頭)は7日、盛岡市清水町の同会議所で第3回会合を開いた。9月下旬の取りまとめに向け、まちづくりや産業育成などの8委員会から、これまでの協議内容や挙げられた課題などが報告さ

れた。約20人が出席。外国人研究者の受け入れ態勢の整備や地場企業の参入のための措置などについて国家戦略特区構想の可能性を含めて協議してきた中小企業振興委は▽日本未

認可の医薬品を国内で対応可能とする措置について特区の必要性を含めた研究・検討▽建設や製造関連以外の分野での外部委託業務のリストアップと参入可能な企業の調査などを今後の課題に挙げた。
外国人研究者らの育児・教育や就労・社会参加などを検討してきた税制問題特別委は、企業による研究者の配偶者を含む外国人の採用を促すため、人件費の一部助成など支援策創設を要望する案を示した。
8委員会の検討結果は9月下旬までにリポート形式でまとめる。

超大型加速器・国際
リニアコライダー(I

9月末に提案まとめ

ILC実現 検討会議 委員会が状況を報告

第3回ILC（国際

リアコライダー）実現検討会議（議長・谷村邦久盛岡商工会議所会頭）は7日、盛岡市清水町の同会議所で開かれた。同会議所の各委員会のILC実現に向けたテーマへの取り組みなどを協議。課題などを整理し、9月末までに提案としてまとめることを確認し合った。

中小企業振興委員会では、ILC建設を中心とした国家戦略特区構想の可能性を念頭に、地場企業の参入などを協議してきた。熊谷祐三委員長は「現段階で特区構想実現は、少しテーマが大き過ぎた。どれだけ地場企業が参入できるものなのか。もう少し問題点をピックアップしたい。外国人の生活基盤の確立にも取り組んでいるが、外国人が安心して医療の提供など大きな課題が出ている」と話した。

まちなつき委員会では、ILC実現に向けたまちなつき構想を掲げ、盛岡市を「未来を創る中枢グローバル都市」と位置付けた。具体的には、国際交流をリードする役割、知の拠点、未来を担う人材を輩出するエリア、多様な居住環境やアクティビティの提供の場などとした。

松本静毅副委員長は「委員からは、世界どこにもあるようなまちにしたくないとの意見が多かった。外国人が安心して日常生活を送れるまち、盛岡らしさを知ってもらうまちづくりの方向で議論を進めている」と同委員会の意見を集約した。産業育成特別委員会のテーマは、企業の参入への仕組みづくりなど。

第3回ILC（国際リアコライダー）実現検討会議



第3回ILC（国際リアコライダー）実現検討会議

ど。必要とされる技術要素の解明、入札基準の把握、国際入札への対応、地元企業の持つ技術のDB（データ・ベース）の整備や情報発信などの必要性を挙げた。

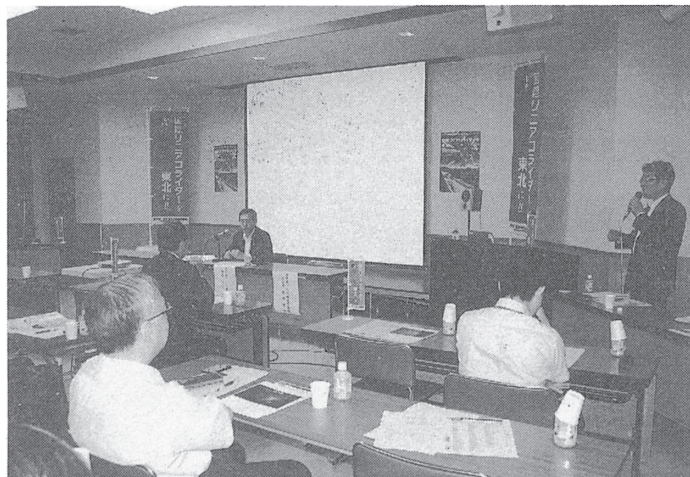
大橋義光同会副委員長は「参画の基準など不明確な点もあり、さらに詰めた。研究所の視察、研修などが開催されているが、まだ地場の参加企業が少ない。もっと参加する企業を増やす必要がある」など今後の課題を挙げていた。

谷村議長は「さまざまな課題もあるが、ILCの実現に向け確実に前に進んでいる」と話した。なお総務政策委員会が、各委員会の提案をまとめる。

リニア誘致に先端学習

盛岡商議所 AAA(つくば先端加速器協)が講演

盛岡商工会議所主催 日、盛岡市清水町の同 ILC(国際リニアコ)所で開かれた。つくば(ライダー)講演会が22市の先端加速器科学技



盛岡商工会議所開かれた講演会(右側がAAAの松岡雅則事務局長)

術推進協議会(AAA)会長(西岡喬三菱重工相談役)の松岡雅則事務局長が講演し、同会の取り組みなどを説明した。参加した同会議所会員ら50人は、AAAの最新の動きなどに高い関心を寄せていた。

AAAは2008年、先端加速器とその開発途上に生まれるさまざまなテクノロジを将来の産業に役立てるため、政・官・産・学の懸け橋役を目的に発足。現在、大手の建設、精密機器、機械など99社と大学や研究などの40機関で構成され

ている。

松岡局長は「ILCをはじめとする先端加速器の可能性や社会的な意義を研究し、発信する活動を継続的に推進してきた」と機関の目的と活動を説明。

具体的には、4部会で活動している。技術部会では、加速器に対する理解を深め、ILC実現に向けた技術的課題を検討している。松岡局長は「最近はやや再生エネルギー分野などでの活用も掲げている」と話した。

大型プロジェクト研究部会では、過去6年で25回の会合を開き、大型プロジェクト推進事業事例の研究などを実施。ILC実現に向けた立地課題、ILC建設による社会へのインパクトも検討し、取りまとめている。

広報部会では、21回のシンポジウムで、参加した約5200人へILCの意義を発信。

ネット上でも加速器に関する話題を継続的に発信している。知財部会では、大型プロジェクトにおける知財の取り扱いの現状を研究し、国際協力の課題抽出も行っている。松岡局長は「ILCは世界最先端の加速器。これを推進することで、新たな産業分野への波及が期待できる。AAAは現在、任意団体。今後活動の幅を一層広げるため、一般社団法人化を図りたい」と話した。

ILCに歴史文化都市

盛岡商議所 国際観光委 ビクトリア30周年も協議

盛岡商工会議所観光国際委員会(委員長・川村宗生川徳社長)の法の検討などを盛り込んだ。11人の委員が出席、ILC(国際リニアコライター)誘致に向けた提言内容、盛岡市・ビクトリア市姉妹提携30周年記念事業の取り組みなどを協議した。

ILCに関し同委員会では「自然と科学が織りなす国際的な歴史・文化都市MORIOKAへ」をテーマに設定し、外国人旅行者の受け入れ体制の整備、サインや案内標識の整備、通訳ガイドの会の運営支援、まちかど案内所の設置などの提言内容を検討してきた。

川村委員長は「ITを活用した情報化対応は、投資も必要だが、

必須条件。公共機関はもとより、ホテルなど宿泊施設や商業施設等でも必要」と話した。

高橋三男同会議所副会長は「来年3月に、仙台市で国連世界防災

会議が開催される。4千人ほどの外国人が来る。参考になる国際会議。ILCをアピールするチャンス。情報発信する必要があらう」と付け加えた。

来年は、姉妹提携から30年目。同提携30周年記念事業実行委員会(田口良一委員長)では、公式訪問団の派遣や記念書籍制作などの

事業を計画している。同会議所ではこれまで、両市の経済団体との経済や観光面での交流をしてきた。

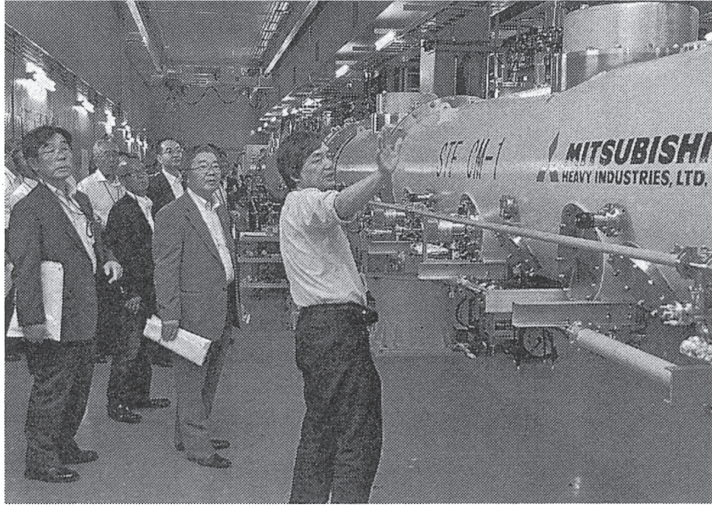
川村委員長は「当所からはまた、具体的な事業が出ていない。これから着手したい。若業を考えたい」と記念の世代の交流も続いて、交換留学生を定期的に実施するなど必要。次ぎの世代に事業が残る事なくような形が残る事業を考えた」と記念事業に向けた取り組み姿勢を示した。



盛岡商工会議所観光国際委員会合

本県産業の参入探る

茨城 県推進協がKEK視察



製造された加速器の性能や今後の実験概要について説明を受ける視察参加者



超大型加速器・国際リニアコライダー（ILC）の誘致実現に向けて取り組む、県ILC推進協議会（会長・谷村邦久県商工会議所連合会長）は9日、茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構（KEK）を視察した。

ILCで使われる加速器の性能試験が行われている施設などを見学し、本県産業の参入可能

性を探った。

県ILC推進協議会によるKEK視察は今年2回目で、県内の企業や自治体、大学などから約40人が参加。ILCの加速器の心臓部となる超電導加速空洞製造施設や加速器の性能試験を行う施設などを見て回った。

北上市二子町のプラステック部品加工業WINGの高橋福巳社長は「建設には多額の金がかかるなどの課題もあるが、地域の活性化につながるのであれば、岩手で取り組むべきことだ」と述べた。

釜石市甲子町の造船業小鯖船舶工業の小鯖利弘社長は「大手企業が加速器製造に関わっ

ており、岩手の事業者が関わっていくことについてには難しさを感じた。いかにして参入するかを産業界全体で考えていかなければならない」と先を見据えた。